

家庭科の男女共修をすすめる会

# 会報

'80 春

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11  
婦選会館内  
〒151

発行 一九八〇年三月二十五日

## 総会のおしらせ

日時 四月五日(土) 午後一時半～四時半

場所 婦選会館(〇三―三七〇―〇二三八)

内容

一、記念講演

市川房枝さん(予定)

二、議事

1 一九七九年度の運動のまとめ

2 一九七九年度決算

3 一九八〇年度の運動方針

4 一九八〇年度予算

5 世話人

三、話し合い

年に一度の機会です。ご自身の体験、地域の状況、共修運動についてのお考えなど、何でもお話しください。

世話人会

いよいよ一九八〇年。国連婦人の10年もなかばとなります。

家庭科の男女共修をすすめる会も、新しい組織になって四年めを迎えますが、婦人の10年中間年に因んだ活動(10ページ参照)も積極的にすすめて行くつもりです。そのためにできるだけ会員の皆さんのご意見をおきかせいただきたいと思いますので、総会にはぜひご出席ください。

運動方針案の作成にあたっては、昨秋のアンケート(2ページ参照)も参考にさせていただきましたが、アンケートの項目にもありましたように、八〇年度は会費についても特に検討しなければならない状況(20ページ参照)です。どうぞご協力をお願いいたします。

## もくじ

総会のおしらせ	(1)
会員アンケートまとめ	(2)
第二回授業参観	(4)
一・一九集会報告	(6)
ブラジルの学校教育と男女の役割	(8)
変るアメリカの家庭	(9)
日本大会実行委員会に加盟	(10)
差別撤廃条約ができました	(10)
「婦人に関する世論調査」から	(11)
自由民主党の政策に関連して	(11)
自治体のうごき(福岡、神奈川、埼玉、東京)	(12)
教職員組合の活動から(教研集会、都教研の調査、文京十中授業参観)	(14)
NHKラジオで家庭科の歴史を話して	(16)
新代議士に共修反対者なし	(16)
世話人会報告	(17)
共修をやめた文京高校	(18)
相談室・男子の「食物」選択について	(19)
おしらせとお願ひ	(20)

## 会員アンケートまとめ

79年冬号で会員アンケートの「声」の一部をお知らせしましたが、ここに結果をまとめてご報告します。

### 一、回答数

79年十二月現在で、会員数は五二五名、回答は七六、一五％弱でいささかがっかりしました。けれども回答はいずれも細かい字で熱心に書き込んであり励まされました。首都圏の世話人は手分けして、回答して下さった方にお便りを出し、連帯の手を握って活動をすすめるように呼びかけました。

### 二、会報に寄せる声

表1にまとめました。会報に関心を持って読んでいただいていることがわかりました。ご意見を今後の会報に生かしてまいります。

### 三、会費について

表2のように、ぜひ今のままでという方が一三％、「やむを得ぬ」を含め値上げしてもよいという方が八四％でした。

### 四、会の活動について

整理すると左のようになります。

### ①すでにやっている

10

12

### ③したい

5

### ④困難点

17

性別役割分業を払拭させる青写真―1、家庭科教育内容の検討―1、社会の右傾化を憂え一層の活動を―1、他団体に働きかけを―1

⑥会の活動への評価  
左のようなうれしい言葉がありました。  
「私は教育関係者ではありませんし、何のお手伝いもできず申しわけなく思っています。しかし、あらゆる場で、男女共修をPRした

り主張しております。会報は貴重な資料です。この会報の記事は、男にも女にも説得する大事な材料です。内容も豊富な会報に、いつも感謝あるのみです。」  
ご協力下さった皆さん、ありがとうございます。  
(半田たつ子)

表2 会費について

①ぜひ今のままで	10 (13.1)
②物価につれて変わるのはやむを得ぬ	33 (43.4)
③活動を拡大するため値上げしてもよい	31 (40.8)
④なんともいえぬ	1 (1.3)
⑤N・A	5 (6.6)

(②と③を併記した人あり)

表1 会報に寄せる声

(知りたい・読みたい・その他をまとめて)

①共修の実施状況を知りたい	28 (36.8)
・カリキュラム・実践報告	12
・実施校数・地域分布	8
・実施できたところの取り組み	4
・未実施校の実施をめざす取り組み	2
・未実施校の実施できぬ現状、理由	1
・実施校がとりやめた理由	1
②共修運動の現状を知りたい	23 (30.3)
・行政の動き、行政への働きかけ、共修をめぐる情勢	11
・全国的な運動の状況、地域差	11
・連帯して運動を強めるための働きかけ	1
③意識調査、データの提示がほしい	18 (23.7)
・家庭科教師の意識	3
・女子大生、家庭科教師の卵の意識	3
・一般市民(含主婦)の考え方	3
・共修で学んだ男子の卒業後の考え方・生き方	2
・校長会の最近の考え方	2
・要人、各界の人の考え方	2
・家庭科指導主事の考え方	1
・家庭科教科書に関する働きかけ	1
・運動推進のよりどころとなるデータ	1
④今までどおりでよい	17 (22.4)
大変力になっている、読みがいがある 先生や子どもの声がおもしろい	
⑤その他	13 (17.1)
・家庭科の現状を知りたい	4
・女性差別とその根源、女性史を取り上げて	3
・外国の家庭科の実情	2
・新しい考え方に立つ家庭科の構想を	1
・新教科書の紹介を	1
・教員養成上の問題点を	1
・男子校の実態を	1

会員のなまの声をお伝えしましょう。

「小さい町なので、あまり自分を主張すると大変住みにくくなり、かえって本音を聞かれなくなるので、私とこの会との関係を、よほどの人にでないと打ち明けられないでいる。そういう環境から、家庭科の男女共修の実現を阻んでいるのは現在の家庭であり、又それを裏づける社会であることが、どうしようもない思いでわかる。働く女性が社会に位置づけられない限り、学校教育において変えていくことは至難なことに近ごろ思えてならない。」  
「共修の本当の意味が理解されず、中性人間を作る主張であるかのように誤解されていることが余りに多いのに驚いている。大学婦人協会会長さへもそうであった。もっと真意をわかりやすく伝える運動をする必要を痛感している。」

「中学の技術科・家庭科の先生と話し合う機会がありました。相互乗入れについてすらあまり考えておらず、まして男女共修など自分自身で考えられず、上からの指導を待つといった現状でした。地方では、まだまだの感があります。」

人の意識を変えることは難しいですね。

### ⑤会への希望

5

父母・同僚の賛同を得るような企画―1、

## 第二回 授業参観報告

### ―都立一ツ橋高校定時制の授業―

好評の前回に引き続き、二回目の授業参観が十一月十五日に行なわれました。前回は全日制でしたので、今回は定時制で共修家庭科を実践している学校になりました。

ちょうど、世話人の佐藤さんが非常勤で勤めている都立一ツ橋高校定時制に決まりました。

#### ☆授業について

午後六時からというので、六時ちょっと前に授業の行なわれる調理室へ行きましたところ、すでに生徒たちが男女仲よく、すりばちでイワシをすっているところでした。このクラスは、四年生で男・女10名ずつの20名でした。この地域の生徒たちは、問屋さんに勤めていることが多く、ネクタイをしいた生徒、二十代の落ちついた感じの女生徒、現代風の若者タイプなどバラエティーに富んでいて、グループ活動も楽しそうでした。

調理実習は、いわしのつみ入れ汁と、さつま揚げ、かば焼というメニューで、全ていわしを使ったものでした。

授業は、一時限の後、給食、そして二時限

の授業ということで、実習をするには、かなりきつい時間割です。

生徒たちは、仕事を終えてから、バラバラに登校してくるので、実習の時は、いっしょに始めることがなかなかできないようでした。ふだん、頭のついた魚を調理することがないらしく、気持ち悪そうでしたが、佐藤先生の指示が非常に細かくていいので、日ごろ包丁にあまり接しない生徒でも、いっしょうけんめい包丁で魚をさばいておりました。

生徒たちの動き具合を見ておきますと、生活経験の違いなのか、女生徒の方がテキパキと作業をし、男子生徒の方が、女生徒に指導を求めながら動いているようでした。中には、何もしないでじっと立っている女の子がおりました。が、授業の後半になると、手を出さなかった生徒も手を出すようになり、実習の楽しさを味わっているようでした。

なにせ、でし上がったものの試食の時の、生徒たちの顔は、本当にキラキラしていました。途中、担任の先生も試食に参加し、グループごとに舌づつみを打ちながら、生徒たち

と軽口をたたきながらの食事に、教師と生徒の間に信頼関係ができていたことを知りました。

#### ☆授業の後の話し合い

定時制の共修家庭科について、まず、授業者である佐藤先生からお話を伺いました。

指導計画は「私たちの食生活」から始め、調理実習は九月からで五回だそうです。米、小麦粉、肉と豆製品、魚という具合に、材料別に実習をやっているとのことでした。四年生で「家庭一般」二単位ということで、時間が少ないために、調理の基礎から教えることがなかなか困難であるとのことでした。

今回の魚料理でイワシを選んだのは、生食用が6割、3分の2が食用以外の肥料になっていることを生徒たちに理解させることからだそうです。又、切り身でしか魚に接したことがない生徒に魚を一匹触らせることもねらいの一つだそうです。

この後、参観者から質問、意見などを聞きました。今回は、東京家政大の学生さん五人、日本女子大の学生さん、高校の社会科の先生、共同通信の取材の方々が参加なさいました。

参観の方々は、まず、生徒たちが協力して実習していることに感動したことを口々に話

しておられました。そして、この一ツ橋高校の周りは商業地で、材料をそろえるのも先生が全で一人で買ってくることに、又、様々の年代の生徒がいるため指導がたいへんであることなどを聞き、驚きと共修家庭科への熱意に参観者全員感心しました。

「共修家庭科を続けていくためには」という質問に対して、生徒たちが日常の生活に取り入れられるものから始めることが一番だということでした。家族関係などの理論からいすると生徒たちが授業にのってこないそうです。家庭科が自分たちの生活に必要な教科という自覚が生まれる三学期になると、時間の足りなさを惜しむそうです。そして、何よりも教師と生徒の信頼関係を大切にすれば、誰でもできるそうです。

(八島 紀子)

#### 調理実習

##### 「魚を使って」を公開

佐藤 慶子

すすめる会の公開授業として定時制の男女共学「家庭一般」(二単位)のうち調理実習を見せた。私の授業では一学期以来食物を中心に、食物の歴史や経済(生産・流通・消費

の過程をふくむ)加工・調理の技術(技能)食生活の様式と文化などを学んできた。題材としては、でんぷん食品、たんぱく質食品が主なものであった。

たんぱく質食品の中では、私は肉とともに大豆をとりあげ、米と大豆のアジア的生産・消費の様式に注目させ、大豆食品の経済性とともに大豆と肉を混用する料理文化が展開できないか疑問を投げかけている。

しかし、それとともに私は魚を一尾ごと扱わせることも必須にしている。魚は動物性たんぱく食品として肉と栄養的に異なった側面を持ち、骨・皮など成長期に不可欠の部分を持っている。日本人の動物性たんぱく質の重要な部分を握ってきたともいわれる。だが、消費需要の割に近海魚の漁獲が少なく、魚を扱う技術が家庭からも失なわれてゆくことによって、魚消費は高級化と塩干物に二分され、生魚を上手に日常食に生かしてゆく能力はきわめて低くなってきている。そこで私は生徒に「新鮮な魚はおいしいこと」「安い魚でもいろいろおいしい利用法があること」「最低の調理・加工技術がないと魚の安全な消費はできないこと」を理解させようとしている。

今回の題材は「いわし」で、つみ入れ汁、さつま揚げ、かば焼を取り上げた。かば焼は

開いてしょうゆをつけてフライパンで焼く五分間クッキング、つみ入れ汁はあぶった骨をすってつみ入れだんごにまぜたカリシウム満点の食べ方、さつま揚げは添加物を入れないすり身の実感をつかませる例であった。

女生徒がリーダーシップをとった当日の実習は生徒も見学者も意気投合、男生徒の自然な実習姿が改めて新鮮であったと過分の好評を頂いた。

授業を参観された草川剛人さんは次のような感想を寄せてくださいました。

一九七九年十一月一日、都立一橋高校定時制の男女共修家庭科授業(佐藤慶子教諭)を参観した。鰯の蒲焼きとつみ入れと薩摩揚げを調理する。調理しやすく栄養価の高い鰯を男女の生徒が班別に調理していく。話にきいていた男女共修を実際の眼で見て僕は驚くとともに授業後試食してみてもそのうまさを感じた。男女が協力して食生活に参加する男女共修こそ男女平等への理屈抜きの第一歩だと思った。生徒の皆さん、佐藤先生、会の方々に感謝致します。

# 一・一九 集 会 報 告

テーマ 海外の女性と家庭生活

報告 樋口恵子さん

司会 半田たつ子  
記録 青山 和世

この日は初めての参加者が多く、会場は満員になり、新しい入会者も何人もありました。日本大会実行委員会の件(10ページ参照)などの経過報告(梶谷典子)のあと、樋口さんの海外旅行の報告を聞きました。

## 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)

七月に招待旅行で行きました。旅行は招待で見せてもらうだけではないと痛感していますが、今のところ北朝鮮は招待でもされないといく機会がありません。

### 女性の社会的地位

最高人民会議(日本の国会、国民全員が投

票して選ぶ代表者の会議)の女性の比率は20・8%、地方代議員(日本の県議会議員、あるいは市議会議員)の女性は33%、人民経済大学(ふつうの大学ではなく、あらゆる分野の革命幹部養成の労働党直結の機関)の女性の教員は20%、学生は30%、平壤にある医科大学の女子学生は40%。この女医の比率40%はこの病院に行っても一定している。医学部及び理科系統の大学の女子学生の比率は30・40%、しかし、男女の比率についての割当て制度はないとのこと。

文部次官、厚生次官、文部大臣(会わなかったが)、唯一の考古学博士(歴史博物館館長)も女性でした。

青千里農場(中国でいう人民公社)の最高意思決定機関の委員20名のうち、8名が女性12名が男性で、委員長は女性(不在で会えなかった)。

専門職、意思決定機関に、日本とは比べものにならないくらい男女平等がすすんでいる。

### 女性の就労・進学の条件整備

保育所はかなり整備している。農場の保育

所と全託の保育所を見ました。全託の保育所は一週間預け土曜日の午後帰ってきて、月曜の朝また預ける。国の政策以上にGNPも関連すると思いますが、保育料は無償。(中国の場合、まだ設備も充分でないし、かなりの保育料がいります。)女性の労働参加は大切なことだから、女性の働きと比べると赤字かもしれないが、保育所はやっていくとのこと。儒教の香りが根強く残る

保育所の設備はよく、遊ぶ所と食べる所は別ですし、遊具もそろっています。一才六ヶ月からの幼児の保育所の風呂場が男女別になっているのに驚きました。

現在義務教育は完全無償で十一年制。そのうち一年が幼稚園、いわゆる学校が十年間で、人民学校四年間、初等中学三年、高等中学三年、義務教育終了後大学に直結している。

大学は非常にフレキシブルで五年・七年。

教育制度が何本だてにもなっていて、学校教育のほかに通信教育制度、職場で学ぶことのできる農場大学などがある。あらゆる職種についてランクづけがあり、教育向上は行きとどいていく。

ところで、この十一年間の義務教育のうち、本当の意味での男女共学は幼稚園だけである。しかし、そこでも男女の表現が違っている。

### 老人問題

問題という意識が理解できない感じ。ねたきり老人はどうしますかと聞くと、予防医学が発達しているのだからねたきり老人は出ないと答へ。今後は国と国との卒直な話し合いに慣れていくと思われるので、このあと出かけられる方に聞いてきてほしい。

## 内蒙古自治区(中国)

九月に行きましたが、中国本土に比べると辺境の地で、北にモンゴル人民共和国とゴビ砂漠を二分する緊張感の高いところ。

中国本土からモンゴルに近づくほど女性の代表者に会うことは少なくなった。

中国の少数民族改革は、少数民族の伝統・風俗を大切にすることによって行われた。しかし、少数民族地区での宗教的伝統がしっかりと守られているとすれば、やはり伝統的な女性の地位の低さも守られているのではないかと推察する程度であった。

## ヨーロッパ四ヶ国のホームヘルプ制度

十月に英、仏、スイス、ベルギーのホームヘルプ制度をみまして若干の違いはありまし

たが、日本のような低所得世帯対策ではなくて、共働きの家庭でも老人が寝込んだ場合申請すれば派遣してくれるホームヘルパーはすべての家庭をささえる制度に定着している。

### イギリスの男女平等のためのパンフレット

男女平等委員会が「男女平等をすすめるためのガイドライン」(A5判厚さ1cmの冊子)を作って細かな男女平等の規定をして、教育担当者に配っている。

この中で、教育における男女差別は本来意識的にしていることは比較的少なく、無知なためにしている差別が以外に多いことに気がついていかなければいけないために、このようなガイドブックを作ったといっている。私は全くその通りだと思っています。そして、こういうものを翻訳して日本の文部省も読んでほしいし、見習ってほしいと思います。これは誠にきめ細かなものです。写真一つ見ても、中央でミシンをかけているのが男の子です。これを北朝鮮の文部省へも送ろうかと思っていますが、木工をしている女の子がでてきます。それから、試験管を持って理科の実験をしている女の子とそばで見ている男の子などのいろいろな場面がでてきます。

指されると男女とも「ヤッ」といって立ち上がるまでは同じ、男の子は仁王立ちで、女の子はスカートのフリルをつまみ小首をかしげてしゃべる。

人民学校は、校庭には男女ともいるが、クラスは全部男女別。初等中学、高等中学では校庭も、クラスも全部別学。その教科内容は知的教育の程度は同じだが、家庭科は女子必修。内容が刺繍をしたり、着物をつくったり、その手入れをしたりという技術的なものから、人民学校にはなく、初等中学から必修で六年間ある。

なぜ初等・高等中学が別学なのかという疑問に対しての文部次官からの正式な答えは、日本の文部省が喜びそうな答えで、人民学校と大学は共学なのですから前置きして、やはり思春期である。この思春期に世界観が形成される大切な時期である。第一は男性女性の特性が違う。第二に男女の生理的要求を生かして別学にしているとのこと。

結婚はある意味で義務。離婚がなく、死別した場合も女の方は再婚しない。理由は母子家庭を保護しているから。また、朝鮮の女性は非常に子どもを愛し、育てることに充分生きがいを感じているし、大変貞淑ですから、と言われて考えてしまいました。

そのパンフレットのまえ書きには、「性別禁止法ができただけで、性別禁止法が伝統、習慣、偏見のすべてを除去するとは限らない。しかし、正規の教育および訓練でさえも違法な差別を受けないことを保障する必要がある。このガイドラインは平等委員会が違法であるとする教育上の実行行為を明らかにし、教育における機会の平等のため、平常な基盤を与える良い示唆のために書いたものである。」と書かれ、次にはどういふものが不平等であるかということの例を実にたくさんにわたってあげております。

たとえば、幼児期、女の子が機械とかパズルの空間認知する遊びが不足していることが将来数学的な能力を弱めるといふような研究がいろいろあり、幼児の教育に携わる教師は女の子に特にこの種の遊びが不足しないように配慮しなければいけないというように細かにあげています。

#### 質疑応答

Q 家庭科というより生活科という名前にして義務教育の最初の年から組み込んでいくと良いと思っているが海外ではどうか。

A 朝鮮での名称は聞かなかったが、初等教

育に家庭科はない。中国は家庭科は男女ともないが、五年前には男女とも労働の時間があった。しかし今はないかもしれない。英では、小学校からあるかどうかはわからないが中学にはあり、選択的なようす。

Q 北朝鮮では、儒教的モラルが染みついている中で、女性の社会進出と矛盾しないか。  
A 矛盾すると思うが、矛盾しない大きなバネが働いている。強いリーダーのいる国で、そのリーダーが女性を非常に高く評価している。

Q 北朝鮮では、乳児をもつ母親には労働軽減があると聞いたが、乳児は女性が育てるべきという保育観があるのか。

A その制度は、十五歳以下の子どもを三人以上持つ母親は一日六時間の就労で八時間の賃金をもらえるというものです。また、金日成主席の子どもの保育に関する講演要旨には、子どもを育てる母親の責任が非常に強調されている。

Q 産前産後の休暇はどうですか。

A 中国の場合、産後8週間。産前の規定はないが、具合が悪ければ休める。北朝鮮も産前の規定はないようす。

今ブラジルにお住いの塚本さんと、最近アメリカに行つて来られた河野さんに両国の状況をしらせていただきました。

### ブラジルの学校教育と男女の役割

塚本しう子

同じ年のクラスメイトがいて、自分の机があつて、自分のお教室があるという学校のイメージを、ブラジルの教育を考えると、まったく忘れて下さい。

私の隣に住んでいる九才のカタリナは朝七時半には家を出て高校に行き、前夜授業のあった教室の机に向い正味約三時間、ポルトガル語の読み書き、算数を勉強し、一時半には歩いて家に帰ります。昼食をとるために会社からもどつた父、母と七才の弟のパウロと一緒に食事をし、パウロはそれから学校に行きます。このようにブラジルの教育は午前・午後・夜間の三部制になっており、期末テストで一定点に足りないと八年間の義務教育期

のが発展途上国ブラジルの姿です。

### 変るアメリカの家庭

河野貴代美

ある家族の話をしよう。カリフォルニア州のサンタモニカからボストンに移り、ある典型的な中産階級の家庭（A家）に住み込んだ。夫、公務員四十代初め。妻、主婦。高校（男）、中学（女）、小学（女）の子供三人。A氏は、性別役割分業主義。妻や子供を大切にしていたが、よく「女は……」と結論していた。一九六九年、渡米して一年たらず、まだリブの波に洗われていなかった私は、たいして反論もせず、その余裕もなくそこに半年居た。

それから十年たった去年の十月、ボストンに居た私はNOW（全米女性機構）の小さな集会に出席していた。どうも見たことのある初老の婦人がしゃべっている。なんとAさんではないか。いい人たちだった、という思い以外、あまり深い心の結びつきなどなく縁が切れていたのだ。つもる長い話はここに書けないけれど、A氏は五年前ガンで亡くなり、子供たちは一番下の子を除いて結婚している、

という。あのひかえめな内気なAさんが「彼が亡くなった時、私はまだ四十四だった。彼の死が私を目覚めさせた、という皮肉だけど、経済的なことだけでなく、いつも彼の影のような存在だったことに気がついたのよ。人間一人では生きられないでしょ。だったらみんなと一緒に生きていくしかないじゃない」年はとっていたけれどAさんの目は輝き、生々していた。結婚している子供たちのほうが、父親の影響をぬけきれず、まだ保守的で、「彼らの再教育やっているのよ。今」と言う。

この話から、米国の家庭が全部そうだ、などというのは暴論だろう。ただわりとありふれたエピソードであるのは、一九七七年十一月のヒューストンで開かれた「第一回全米女性会議」でみてきた。

家庭のあり方は大きく変わっていった、と思う。どのように、はまだ明確ではない。男女平等憲法修正案（ERA）支持者は、カーター大統領の提案している「準兵役義務」にどう答えるか。平等をとなくて、女も戦争に行くか？ アフガンヘイランへ？ 難しい。（なお、河野さんは特に女のためのカウンセリングを仕事としておられます。）

## 国連婦人の10年中間年 日本大会実行委員会 に加盟

婦人の10年中間年にあたり、全国組織の婦人団体が協力し合って大集会を開くことになりました。3月初めまでに実行委員会（委員長市川房枝さん）への加盟団体は47、まだふえる見込ですが、家庭科の男女共修をすすめる会も実行委員会に加盟、常任委員もつとめることになりました。

会には男性会員も多く、本来は婦人団体ではありませんし、財政的な負担も、会にとつては小さなものではありませんが、家庭科の男女共修をすすめることは男女平等をすすめることでもありますし、共修問題に対する関心を更に高めるチャンスにもなりますので、「同じ目的を持ったグループとの連帯を」（家庭科の男女共修をすすめる会運動のすすめ方について）という方針に従って加盟を決めました。

この実行委員会によって開かれる集会は次

の二つです。

### ◆四月会議

とき 四月十二日(出) 午後一時半～四時半

ところ 主婦会館ホール(東京四谷)

参加者 実行委加盟団体会員を中心に200名程

目的 国連婦人の10年前半5年の評価、点検

今後のとりくみを協議する

政府・関係機関・団体自身への要望

### ◆日本大会

とき 十一月十五日(出) 午後

ところ 未定

参加者 一般に広く参加を呼びかけ、3000名程

の大集会とする

目的 一九八〇年世界会議の結果を受けて、

婦人の10年後半の運動について考える

なお、政府間の一九八〇年世界会議は七月十四日から三十一日までデンマークのコペンハーゲンで開かれ、「平等・発展・平和」のメインテーマに加え、「雇用、教育、健康」それに難民問題、人種差別問題をサブテーマとして協議が行われます。

コペンハーゲンでは同時に民間女性の会議「フォーラム」も開かれることになりましたが、その内容などは未定です。

(梶谷 典子)

## 差別撤廃条約が

できました

昨年暮、第34回国連総会で「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」が採択されました。

各国代表者の熱意によって、多くの関係者の予想よりも早く日の目をみることになったのです。

「政治的、経済的、社会的、文化的、市民的或いは他のいかなる分野においてであつても」（第1条）性に基づく全ての差別を禁止しようという趣旨で、30条にわたってかなりこまかな規定ができています。

もちろん教育上の差別撤廃についても述べられ（第10条）、「同一の教育課程」ということばもはっきりと書かれています。79冬号でご紹介した文部省の抵抗は斥けられたわけですから。

外務省国連局長は「来年の国会には間に合わせたい」と言っていますが、早くこの条約を批准するよう、政府に積極的に働きかけて行く必要があります。

(梶谷 典子)

## 「婦人に関する世論調査」

から

総理府は一月三日「婦人に関する世論調査」の結果を発表しました。今年は「国連婦人の10年」の中間年。現在の婦人の施策を見直し、今後の施策をすすめるための基礎資料とするのがねらいです。対象はI部（結婚、家族・家庭）全国20歳以上の男女1万人、II部（関心・生きがい・不満、職業、老後、社会活動その他）全国20歳以上の女性1万人。やはり総理府が72年、76年に行った調査と比較してみました。

高校の家庭科教育を「家庭生活についての知識や技術を身につけるため男女共に学ぶ」と考える女性は30%（76年22%）、「男女共、本人の選択にまかせる」30%（同42%）と、選択でなく必修で学ばせたいという傾向に変わり、家庭科の重要性が認識されてきたと思います。「女子だけ学ぶ」は24%（同26%）。

結婚観では「一人立ちできればあえて結婚しなくてよい」と考える女性が23%（72年13%）と大幅に増え、男性の13%（同7%）を大きく引き離しています。「なんといっても女の幸福は結婚」と考える女性は32%（同40%）。

配偶者は「あくまでも自分の意志」で決める56%（同46%）、「子供ができてお母さんとして職業を続ける」20%（同12%）女性が増えています。

又「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同意」の女性は36%（76年49%）、「同意しない」34%（同40%）と共に減少し、「どちらともいえない」が30%（同11%）に増加しています。

72年調査を行った時、戦後20数年間で女性の何が変わったのかとの問われましたが、その後、75年の国際婦人年を経、7年、従来の性別による役割分担の考え方にゆさぶりがかけられていることを感じます。

(馬場 洋子)

## 自由民主党の政策に関連して

保育は母親のみの責任？

自民党の

「保育基本法」構想

家庭基盤の充実に関する要綱に続いて、自民党では、昨年十月「乳幼児の保育に関する基本法」の構想を発表しました。家庭基盤充実要綱と一対になった、家庭保育重視の原則を強調した内容——つまり、三才までは子ど

もは家庭で保育されるべきである。家計がなりたっているのに母親が働くことはせいたく、わがままであり、そのために保育所が育児放棄の道具にされている。人格形成のための乳幼児期の重要性を考慮して、家庭における「母子の心ふれあう」保育の原点に立ち返るべきだ。——という趣旨です。そして、止むを得ず働かなければならない母親には、育児休業保障や、育児手当の創設により、「安んじて家庭保育に専念できるように」するべきだ、とのべています。女性の労働権を無視し、乳幼児の保育を母親のみの責任とする考え方は、家庭科共修の主張とは全く対立するものです。女だけを家庭にしばりつける危険な方向を批判していきましょう。

(駒野 陽子)

## 家庭基盤充実政策について

質問状発送

家庭基盤の充実に関する特別委員会の長である早川氏に面談を申し込んだが、質問状にして欲しいと言われたので、一月末、共修の内容等についての質問状を送った。回答も手紙で送るという返事であった。

(中嶋 里美)

## 自治体のうき

### 福岡県婦人問題懇話会

#### 中間答申について

秋枝 藤子  
(婦人問題懇話会委員)

国連婦人の10年に関連し、福岡県においても婦人問題の見直し及び改善を推進すべく、知事を本部長とする婦人関係行政推進会議が設置されたのが一九七八年六月、同時に民間有識者による知事への助言機関として婦人問題懇話会が発足したのが同年九月であり、以来、約一年後の昨年一〇月一日に中間答申を提出するまでに、①社会参加・教育部会、②労働部会、③家庭・健康・福祉部会の3部会に分れて、延33回の討議を重ねた。

家庭科の男女共修問題は、私が部会長をつとめた社会参加・教育部会で取り上げられ、私自身過去30年来家庭科の男女共修を主張し続けて来たことでもあり、かつ他の委員達からの強い要望もあり、全員一致で、中間答申中に家庭科共修の早急実施を要望した。

### 埼玉県行動計画公表さる

一月七日に「婦人の地位向上に関する埼玉県計画」が発表された。婦人問題企画室長の藤井正子氏の話では全国の中で八番目に完成されたものという。中間年になってまだ八つしか出来ていないことは淋しい限りである。

去る二月五、六日に国立婦人教育会館で埼玉県婦人指導者セミナーがひらかれ、行動計画についても説明が行なわれた。行動計画の主要課題は、家庭における男女平等の推進、男女平等観に立った教育の推進、女性の雇用の安定と労働条件の改善、母性の尊重と女性の生活福祉の向上、女性の社会的活動への参加促進の五つの柱で構成され、具体的な施策、例えば教育分野の中では、公立高校の男女共学制についての検討委員会の設置というようなものが全部で一四四あり、その中の重点施策が二六ある。教育分野での重点施策は、婦人学級等における婦人問題に関する学習の充実、大学、高等学校等開放講座の拡充、女性の校長、教頭等管理職の登用促進、女性の社会教育主事の養成、社会教育に関する相談、学習、啓発のための総合センターの設置の五

### 東京都にまた要望書

東京都では、53年11月に策定された「婦人問題解決のための東京都行動計画」に基いて、計画の具体的推進をはかるため年度ごとに実施細目を策定することになっています。

54年度の実施細目のうち、「中学校・高等学校家庭科における男女共修の推進」の項目には次のように書かれています。

中学校「技術・家庭」については――

『昭和56年度以降の実施の新学習指導要領に基づく中学校「技術・家庭科」において、男子・女子それぞれの領域選択履習（いわゆる相互乗り入れ）が円滑に実施できるよう、教育課程編成要領作成協力委員会において、領域の選択や指導計画について検討する』

### 要望書

つまり、学習指導要領の範囲内で検討しようということ、都独自の立場で積極的に共修をすすめるような姿勢ではないのです。関係者のたいへんな努力によってやっと家庭科共修が盛りこまれてもこの始末。黙っているわけには行かないと、世話人会では次のような要望書をつくり、二月二十五日に発送しました。

一昨年一―月に策定されました「婦人問題解決のための東京都行動計画」には「中・高等学校家庭科における男女共修の推進」が盛りこまれましたが、「昭和54年度実施細目」によれば、中学校「技術・家庭」のいわゆる「相互乗り入れ」や、高等学校「家庭一般」を男子が選択履習する場合について研究あるいは検討すること、学習指導要領を一步も出ず、「共修の推進」とは言えない内容です。

男女平等教育の推進のためには、家庭科の全面的な男女共修を実施することが必要です。55年度以降の事業には、全面的な共修をすすめるための対策を必ず盛りこまれますよう要望いたします。

### 神奈川県も

#### 行動計画を検討中

神奈川県では総合的な「県計画」があるので婦人行動計画はつくらないときいていましたが、去年から行動計画の検討がはじめられ、できるのは来年だということです。本会の会員もメンバーになっていますので、家庭科共修が盛りこまれることを期待したいと思えます。

(梶谷 典子)

## 教職員組合の活動から

### 第29次

#### 日教組教研

#### 家庭科分科会報告

さる一月二五日・二八日、高知市で開かれた教育研究全国集会の家庭科分科会には、延約五五〇名が参加しました。

討議の主な柱は、(1)男女共学、(2)家庭科の系統性、(3)学習指導要領をのりこえる自主編成をどうすすめるか、(4)研究・運動のすすめ方、の四本で、提出された四七編の実践報告を受けて協議が行なわれました。

男女共学もんだいを取上げたレポートは、計一八編で、昨年よりさらに増えましたが、中学校に集中していました。

報告の内訳は、計画に関したものは四編であとは共学の内容についての研究・実践でした。また、領域では「食」がもっとも多く八編、「衣」が三編、「住」二編、保育・その他が各一編。うち高校のレポートは「食」と「衣」が各一編と少なく、現在、共学の焦点

は、中学校にあることが知られました。

新学習指導要領では、家庭系列と技術系列の各一領域を「男女相互のり入れ」にするように「指定」していますが、県によっては男女を同じクラスで学習させることを禁止する「指導」がきびしく行なわれるという、しめつけのあることも報告されました。

しかし、昨年の集会で他県の実践に感動したS県の正会員のよう、困難をのりこえてこの一年共学の実践にとりくみ、その成果をたずさえて再登場したような事例もみられ、「相互のり入れ」をバネにして「共修はよいが共学はひかえよ」といった行政指導をのりこえる実践が、中学校では着実に前進していることが報告され、励まされました。

共学を実現する上で、きめ手になるのは、中学校の場合、特に技術科教師の同意で、技術科との合意さえ成立すれば、共学にふみ出すことにさほど支障は生じていません(長崎県のような例外もあるにはありますが……)。問題は「限られた時間内で、二つの系列からどの領域を選び、内容をどう編成するか。

技術科との関係をどうするか」などが、中心になっていました。高校については長野、東京の実践と「共学家庭科で何を、どう教えるか」の構想が報告されましたが、討議をする時間がありませんでした。

「会」のパンフ、技術・家庭科の男女共学をどうすすめるか」の売上げ数は、予想を下まわり四〇部にとどまりました。

(和田 典子)

### 東京都の

#### 技術・家庭科男女共学の

#### 実態

79年度都教研家庭科部会では東京都内の中学校全分会に共学に関するアンケートを依頼した。その結果は……

(1)現在共学している学校	29校	12・8%
(2)一・二年内に共学を計画している学校	29校	12・8%
(3)共学計画はないが、したいと考えている学校	81校	35・8%
以上、(1)(2)(3)をあわせると、139校	65・9%	

の学校が共学したがつている。

(回収率 38・7%)

共学にできない理由としては、(1)実習室の

問題―共学にすると実習室が倍になるため、(2)生徒数が多すぎ指導の自信なし、(3)技・家の教員数のアンバランス(2対1が多い)。

しかし、なかには「共学できないのではなく、共学をする必要を感じておりません。男女は本質的に異なるもので、それを同一にしなければならぬ理由はない」という荒川区E中のように男女特性論をあげる学校が3校もあった。

高校における男女共学の実態は……

- (1)共学実施27校 定時制20 全日制7(家庭一般で17 選択で8)
- (2)未実施79校(必要と考える34 必要ない24 無記入7 家庭科がない13)

(回収率 33%)

定時制に多いのは生徒数が少なく講師時数をとりやすい、全日制の6校は職業高校で、家庭科教師が複数配置になっている。今後ふやしていくためには、教員数の増員確保と一クラスの生徒数を少なくすることが望まれる。教育課程編成にあたって、共学家庭科の実施が考えられているところは少なく、話題にもならない所が多いようだ。しかし実施できた学校では、教務、教科代表、家庭科教師などで編成会議がもたれ、共学の意義についての検討や条件整備がおこなわれ、理解と援助の

もとにすすめられてきた。(日教組第29次、日高教第26次教研集会の資料より)

(嶋田 道子)

### 文京十中の

#### 男女共学の授業を見る

二月十六日(出)、文京区立十中で男女共学の家庭科を実践されている舟越立子先生の公開授業が、都教研主催のもとに行われました。五十六年度から新学習指導要領のもとに実施される技術・家庭科の相互乗り入れに向けて催されたものです。

区立十中では現在、一年で家庭科一時間共学、二年で技術が一時間共学で行われています。三年は別学です。

単元は「下衣の着用と構造―ショートパンツの型紙を作る―」です。

「健康な衣生活を送るには、どのような衣服をどのように着たらよいかをつかむことが重要です。そのため衣服の構造がよくわかる製図・型紙を作ります。授業では、下半身をおおう衣服である下衣―ショートパンツを題材としています。」と説明します。

この日は、筒を、両足にわたる、体の厚み

やまた上を測ることが授業で行われました。

紙でまきスカート式の筒を作り、両足に分けるために切り目をいれますが、そこで必要になるのが体の厚みとまた上。先生の指導のもとにそれぞれの体を測ります。体の厚みは、壁にびったり背中をつけ、おなかにものさしを置き、壁からの長さを測ります。わたしのおなかは何センチ、一番出ている所、とあらためて自分の、おなか、をさがしている子もいます。グループで協力しながら初めて知る自分の体の厚み、他の人との比較、男女共に測り合いながら楽しそうに授業はすすんでいきます。生き生きとしているのです。四五分という短かい時間の中で舟越先生が四六人の子供たちの、知る喜び、を一つ一つ引き出していく姿に驚くばかりです。

このような授業も最初は、教科書を使わない授業として、父母から理解のない声が聞こえていたそうです。

この貴重な公開授業の参加者がたった六名とは、非常にもったいなく思いました。

しかし、着実に男女共学の実践が各地で行われ、子供たちの生き生きとした姿が増えなければ、

(馬場 洋子)

# NHKラジオで

## 家庭科の歴史を話して

半田たつ子

三月二日のNHKラジオ、学校放送「教師の時間」で、家庭科30年の歴史を、立教大学中野光教授と対談しました。中野氏は『大正自由主義教育』という本を出しておられ、「生活教育」という雑誌の編集もなさっている方なので、戦後の民主教育の旗印として誕生した家庭科教育には深い理解を示され、スムーズに対談を運ぶことができました。

私は、家庭科の初心が歪曲させられてきた三十年、その社会的・政策的背景と、家庭科教師の対応、共修運動はなぜ生まれたか、現状と未来への展望などを話しました。中野氏が強い関心を示されたのは、①誕生当時の家庭科が「家事・裁縫の合科ではない、女子用教科ではない、技能教科ではない」といういわゆる三否定の教科として説明されたこと、②家庭科は、女子用教科か、男女共学の教科か、によって教育内容が異なる、の二点でした。また、ご自身の現在当面していらっしゃる問題ともかかわって老人問題は家庭科の重要な教材ではないか、と言われました。

「以前学校放送で家庭科を扱っていたが、どうも教科をつかみ切れなくて止めてしまった。今回の話を聞いて、家庭科の性格がよくわかり、放送で取り上げるべき内容を豊富に含む教科だという気がしてきた。新しい角度から考え直して、ぜひ番組に復活させたい」と言われました。特に、日本の男性が生活的な知識や知恵にうといまま、くらしをなさるにしているがむしろに働かされていることを外国人から指摘されたこともあって、ご自身も問題意識を抱いてこられたようでした。学校放送の担当ディレクター氏にご理解が生まれたのは、うれしいことでした。

### 新代議士に

#### 共修反対者なし

国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会公開質問状グループでは、昨年11月、新代議士に婦人問題についての質問状を

送りました。「『中学校、高等学校の家庭科は男女共修にすべきだ』という考え方に賛成なさいますか」という質問に対して、回答は次の通り。

	賛成	反対	なんとも いえない
計	11	0	4
民社党	5	0	1
共産党	1	0	2
公明党	3	0	0
社会党	1	0	0
自民党	1	0	1

何とも言えない理由は、主として、家庭科の内容が問題だというもの。男女の特性に応じた教育も必要ではないか、とする回答は1名でした。

「男は仕事、女は家庭」という考え方に對しても賛成は0でした。

(梶谷 典子)

## 世話人会報告

十一月十九日

◆オレンジパンフの内容、執筆者が正式に決まる(原稿依頼は半田、和田が担当)。

原稿締め切りは一月末。

表紙は毎回ステキな表紙をかい下さる吉田佑子さんをお願いする。

◆一月十九日集会について。

会員外の方々へのお知らせは、いつもの「はがき」はやめ、PTAを中心にビラを配ることにする(ビラは八島担当)。

◆会員へのはがきアンケートの返事を表にまとめ、今後の会の活動に役立てることにする(表作りは青山担当)。(馬場洋子)

十二月八日

△報告▽

◆黄パンフ二千部増刷したこと。

◆斉藤義光(小山台高校長)著「高等学校教育課程の手引」の中に家庭一般男女共修の問題点が書かれているが、当を得ない内容。

◆オレンジパンフ執筆者について。

◆一ツ橋高校の授業参観について反響が大き

いこと。

◆ジュディ・シカゴ著「花もつ女」出版につ

いての記者懇談会に招待されたこと(出席半田)。

◆他団体の集会でのアピール予定。

△協議事項▽

◆日本大会実行委員会に参加を決定。

◆会報春号は増頁。

◆一・一九集会の役割分担。

◆総会日程

◆忘年会のこと。

(和典典子)

十二月十五日

忘年会の席で次のことを話し合いました。

◆国連婦人の10年中間年日本大会の実行委員会に参加する。代表者は別にたてず、委員会の出席は、出られる人が交代で出る。

◆会員アンケートの取り扱い、解答者に世話人が手紙を書き、地域での共修の様子などを聞く。手紙の内容は次回検討する。

◆来年度会費は、案として年二千五百円。それに五百円カンパ。更に検討して四月総会に提案。

(八島紀子)

一月十九日

一、国連婦人の十年中間年日本大会の常任委員となった。四月十二日に開かれる「四月会議」にはこの五年間の活動が報告される。

二、会員アンケート七六通に対し世話人が手分けして手紙を書き活動を広げる。

三、労働省婦人少年局の募集している「婦人の十年と私たちの活動」に対して原稿を送る(担当青山)。

四、会費未納者に対し次回会報送附時に催促をする。

五、二月二日行動を起こす会の「Uターン禁止」の集会で入会申込み書を配布する。

六、中学校の家庭科の授業参観は六月に延期。

(中島里美)

二月二十三日

△報告▽

日本大会実行委のこと、自民党への質問、労働省に出した報告、会報春号の内容、オレンジパンフ進行状況など。

△討議・決定事項▽

◆総会について一だんどりと担務。

◆日本大会実行委について一分担金を2万円とする。婦人の10年前半の活動に関するアンケートに対する回答の内容を決定。

◆都に対して要望書の内容を決定。教育研究所の家庭科担当者に面会を申し入れる。

◆会費未納者に催促すること。

◆オレンジ・パンフでは、「共修」ということばを使うこと。

(梶谷典子)

特別取材

共修をやめた

文京高校

馬場 洋子

東京の都立全日制普通高校で、四十五年から男女共学の生活科を実施していた文京高校が、五十三年度に生活科をやめて三年目をむかえようとしている。当時、孤立無援の中で始まった独自のユニークな指導内容やその形態は注目をあび、すすめる会でもニュースで紹介した。そんな中で五十三年度突然の廃止は驚きであり、非常に残念なことであった。

去る二月十八日、すすめる会では、ようやく、当時、生活科を担当しておられた三人のうちのお一人社会科の新井先生を訪問する機会を得た。他のお二人宮川先生や阿部先生は文京高校を去り、かつて学校の中で応援をおしななかつた他の先生たちも、すでに多くが学校を去っているという。

生徒たちから大いに歓迎され、他教科の先生たちの応援のある中で、なぜやめなければならなかつたのか。新井先生は、すでにすべて文章化しているのでそれを読んで下さいと

いうことで、その理由は話されなかつた。そして、それはあくまでもたて前であつて、「ほんとにはやめる理由はなかつたんですよ」と話す。やめた理由を、たて前で語る文章（家庭科教育）五十三年三月号、民川氏著）からひろつてみた。

「都立の中流校」といわれる文京高校では、当時、父母から進学のための学習や基礎学力の充実に對する要望の声が強まり、カリキュラムの編成上、生活科をやめ英数国の補習授業を設けることになつたのである（女子は「家庭一般」。しかし、その結果を新井先生は「やる気がなくて勉強ができない生徒には、いくらつめこもうとしても消化不良を起こすだけだつた。論理からでなくイメージから受けとめる生徒には実感を持たせる授業が必要だ」と補修授業の失敗を語られる。

しかし、生活科の再編成については「チームワークさえ組めればいつでもできる。家庭科教師の積極的なヤル気が一番必要だ」と語るだけで、具体的な動きは語られない。

当時、家庭科教師の宮川先生は同じ誌上で「家庭一般」を土台にしながらも内容的に思い切つて新資料を加える創造的授業をやつたことは、客観的評価はともかくとして、当時者の緊張や勉強のスケジュールは厳しいもので

あつた」と、生活科廃止の理由に担当教師の精神的負担をもあげている。

生活科をやめる時期と重なるように、新井先生には学年主任という仕事に加わっている。倫社、政経、そして生活科の上に学年主任が加わることは想像以上の加重負担であり、学年主任という立場から、生徒の学力低下を考へるならば、生活科をやめ補習を組むことはいたしかたのないことだったかもしれない。

現在の家庭科教師、新卒一年の佐藤先生は文京高校就任まで生活科のことは知らず、なぜ廃止になつたのかも御存知なかつた。

一人が抜けることで続けられない生活科であるならば、又、担当教師が学校をやめて、かつての男女共学の生活科があつたかたもなく、廃止の理由も後継者に語られていなかつた実態をみるならば、そこに大きな問題点を見る。貴重な過去の実践を引き継ぐ体制が作られていなかったことだ。

佐藤先生の「男女共学は理想だけど、自分がやるとなるとまだまだ」という言葉に、教師や内容の質を問うあまり、男女共学にふみきれないでいるもう一つの問題点を見る。

それでは現在女子だけがやっている家庭科はなんなのか。男女共に学ぶということが大前提ではないだろうか。

相談室

この号から「相談室」のページを設けます。

家庭科の男女共修をすすめる上で困りのこと、疑問点などについてご相談をお寄せください。世話人がお答えします。誌上での答えのほか、直接ご相談にも応じます。会員以外の方のご質問も歓迎いたします。

ご質問は郵便で事務局あてにどうぞ。

毎週水曜夜に限り、テレフォン・サービスもいたします。

〇三―四六六・二六六五（和田）へどうぞ。

「家庭一般」を履修していない男子生徒に「食物」を選択させるときは

問

数名の男子生徒が「食物」を選択したいと申し出ました。聞けば、その方面に就職する希望があるということなので、受け入れてやりたいと思っています。

ところが、指導主事は「選択科目は、家庭一般を履修した後に学ばせることになってい

るから」と難色を示しています。

男女共学への突破口としても意義があり、生徒の要望でもありますから、何とかかなえてやりたいのですが、よい方法はないものなのでしょうか。

（宮城県 高校教師）

答

ご質問のような問題は、従来から各地でおきていましたので、対策の経験もあります。それをまずお知らせしましょう。

1. 授業は「食物」を受けさせますが、指導要録の記載は、女子は選択「食物Ⅰ」、男子は「家庭一般」を履修したものとして扱うのです。教・委への報告などもそのように処理し、便宜上、合併の複式授業を行っているものとします（実際、男子に対しては女子よりも初歩的な指導をする必要もありますので、ニセの申告ではありません）。

2. 現行制度でも、学校長が必要があれば既成の科目以外の科目を設けることができることになっていますので「食物Ⅰ」ではなく、たとえば「食物」とか「栄養管理」とかいつた新設科目として位置づけるのです（この場合は、内容の報告を求められることもありま

次に、

一九八二（昭和五七）年度より全面実施に入る改訂学習指導要領ではどうなるかを、みてみましょう。そのなかでは、

（1）家庭科を学習する初年度は「家庭一般」を学ばせること。

（2）男子が選択する場合は「内容を適切に選択して指導することができ」ること。

が指示されています。

従つて、男子が履修する「家庭一般」の内容は現在より弾力的に扱つてよいことになるわけです。また「家庭一般」の内容自体も、大綱が示されているだけで、現場の自主編成が認められることになっています。

このような条件もふまれば、ご質問の件は、前述1.の取扱いに準じて、男子は、選択「食物」の授業を受けても、「家庭一般」の単位を与えるようにすればよいことが、いっそうハッキリします。

尚、このように取扱つて既に何年間も「食物Ⅰ」で男女共学をつづけている高校が、東京都内だけでも数十校ありますから、ご希望とあればいつでもそれらの学校を紹介いたします。

★会費について

77年度から79年度までの3年間、年二千元の会費で運営して来ましたが、ご存じのように諸物価が上がり、特に今年は郵便の値上げということもありますので、これから同じ額でやって行けるかどうか、今世話人会で検討しております。

会員アンケートでは8割以上の方が会費値上げを認めてくださいましたが(3ページ参照)、できるだけ上げないで済むように考えた上で、新しい額を総会に提案いたします。

従って、80年度の会費は四月五日の総会が済んでから納入をお願いいたします。

なお、70年代の会費が未納の方は至急お送りください。カンパはもちろん大歓迎です。送金はなるべく郵便振替(東京九・一九一八九一)でお願いしたいと思いますが、小額の切手でも結構です。

会員がふえれば安い会費でも大きな活動ができますし、パンフレットがたくさん売れば財政的にもプラスになりますので、入会勧誘、パンフレット販売についてもご協力をお願いいたします。パンフレットのお申し込みは事務局へ郵便でどうぞ。

★オレンジ・パンフができます

オレンジ色の表紙のパンフレット「家庭一般」の男女共修をどうすすめるかの編集作業がすすんでいます。

高校家庭科をとりまく状況、地域や学校の中でどのように協力し合えたかという実践例、食生活・衣生活・保育・性教育・家庭経済などの具体的な授業内容、各地の共修運動の状況等を盛り

おしらせと

お願い

編集部

理解を広めるためにも大いに利用していただきますように。定価は300円、三月末頃には発行の予定です。

★ピンク・パンフもどうぞ

ピンクの表紙の技術・家庭科の男女共学をどうすすめるかも300円で発売中です。中学での実践をすすめるためにご利用ください。送料は140円です。

★新世話人

次の2名の方が世話人になってもよいと申し出ていただきました。

神田百合子さん(千葉県)  
中村美千子さん(群馬県)

★各集会でアビールを

世話人は左の集会に参加、アビールを行ったり、入会申込用紙を配ったり、パンフレットや会報を販売しました。

◇11月23日 革自連主催の市民政治学校

(教科書検定の問題がその日のテーマ)

◇12月1日 私たちの男女雇用平等法をつくる会主催の女子学生の就職問題をテーマとした集会

◇12月22日 国際婦人年をきっかけとして行動を起こす私たちの会主催の「きりひら

こう80年代」集会

◇2月1日 同じ会主催の「Uターン禁止ノ

なぜ家庭の日なのか」集会

皆さまも地域や職場の集会でアビールをよろしく願います。こんな集会があるという情報もおしらせください。特に、教育関係、消費者問題関係の集会の情報をどうぞ。